

沖縄広報 2022-4703

2022年5月27日

梅雨末期の豪雨で水没車両多発 大雨・集中豪雨時にトラブルを防ぐポイントを紹介 ～2021年6月は1か月間で33件の水没救援要請あり～

一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）沖縄支部（支部長 野原 朝昌）は、2021年6月～7月の1か月間で水没救援要請が33件あったことを受け、これからの梅雨時期の大雨にともない、JAF沖縄支部へのロードサービス救援要請が増えることを予想し、「冠水路走行の注意点」を検証するテスト映像を用いて、大雨・集中豪雨時の不要不急な外出は控えるよう自動車ユーザーに対し呼びかけています。

この検証は、集中豪雨などで道路が冠水した場合を想定し、ミニバンタイプの車両が水深何cmまでドアを開くことができるかを検証したもので、テスト映像はJAFホームページ「実験検証 JAFユーザーテスト」で公開しています。

その結果、水深90cmくらいから車体が浮き始め、後輪が浮いている間は車内外で水位差があり、ドアに強い水圧がかかるためドアを開けることができず、水位差が小さくなると水の抵抗で重たいものの、ドアを開けることができました。



出典：JAFユーザーテストより <https://jaf.or.jp/common/safety-drive/car-learning/user-test>

このような状況を踏まえJAF沖縄支部では、大雨の中での運転を控えるよう呼びかけるとともに、救援体制を強化し24時間“安全と安心の支え”となるロードサービスを提供してまいります。

<添付> 大雨・集中豪雨時にクルマの浸水トラブルを防ぐポイント

このリリースへの問い合わせは以下までお願いします。

一般社団法人 日本自動車連盟 沖縄支部 推進課 担当：平良・當山

〒901-2102 沖縄県浦添市前田 1-48-7

Tel：098(877)9225（平日 月～金曜日 10:00～17:00）

<https://jaf.or.jp/media>⇒



大雨・集中豪雨時にクルマの浸水トラブルを防ぐポイント

1 大雨・集中豪雨の際はなるべく運転を控えましょう

視界や見通しが悪く危険です。運転する場合は決して無理をしないでください。

2 周囲より低い位置にある道路は避けましょう

地下道や道路（鉄道などの下を通過する道路）は低い位置にあり、水がたまりやすいため、短時間でも水位が上昇する恐れがあります。

3 冠水している道路は避けましょう

比較的水深が浅く（5～10cm 程度）ても、水中の様子は分かりにくく落輪の危険性も高まります。

4 クルマの保管場所は安全ですか？

地面より低い駐車場には水がたまりやすいので、安全を確保した上で状況を確認しましょう。

5 冠水により窓やドアが開かない時、シートベルトがはずれない時のため、

ガラス割りハンマーやシートベルトカッターを車内に常備しましょう